

復活節第1主日・復活日・イースター(白)

教会学校との合同礼拝

## イースター礼拝

2026年4月5日 10時20分～

司式:

奏楽:

### 《神の招き》

前奏 『主は死にたまいしが、よみがえりて』 S. シャイト  
イースターエッグ奉獻入堂行進 教会学校

招詞 詩編46編9節  
賛美歌 321

### 《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り  
聖書 イザヤ書55章12～13節 (旧約1138頁)  
マルコによる福音書16章1～8節 (新約 95頁)

子ども説教・教会学校奉唱

交読詩編 詩編118編13～16節 (140頁)  
賛美歌 326

説教 「うれしい うれしい イースター」 八木浩史牧師

祈禱  
賛美歌 325

### 《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条  
就任式 奏楽者、教会学校校長・教師

献金  
祈禱 献金当番

主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

聖餐 75 配餐:

### 《派遣》

頌栄 28

祝福  
報告 4月誕生者祝福  
後奏

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

## 「うれしい うれしい イースター」

『イザヤ書』は、「第二イザヤ」と呼ばれる部分の結びとなる預言です。バビロン捕囚の中にあるイスラエルは解放され、エルサレムへと帰還することになるとのこと。それは自然の変化を伴う荒野の行進として描かれます。「山々と丘はあなたがたの前で歓声を上げ/野の木々もすべて、手を叩く」というのは、自然界全体が神の救いに参与する壮大なビジョンです。「茨」や「いらくさ」は荒野の象徴であり、「糸杉」や「ミルトス」は沃地の象徴です。こうしてイスラエルは、永遠に揺るがない主なる神の御言葉によって、絶望的な状況から祝福へと導かれるのです。

『マルコによる福音書』では、十字架で処刑され、墓に納められていた主イエスが三日目である「週の初めの日」に復活なさいます。その日の朝、ご遺体に油を塗るために三人の婦人たちが墓へ出かけます。ところが入り口を塞いでいた大きな石が転がしてあり、墓の中は空っぽでした。中にいた白い衣を着た若者は主イエスが復活されたことを告げます。それを聞いた婦人たちは、「逃げ去った」とか、「震え上がり、正気を失っていた」とか、「誰にも何も言わなかった」とのこと。「恐ろしかったから」でした。人間の思いと力を超えたことに接したことで、神の介入をリアルに感じ取ったのです。そうです。イースターは恐ろしいのです。恐ろしいからこそ、うれしいイースターになるのです。ハッピー・イースター!